

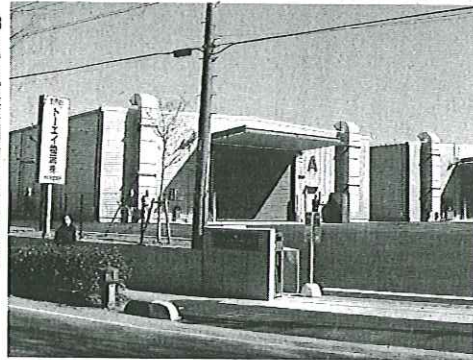
大利根倉庫が完成

来月末に満庫決定

危険物対応 県内で最大規模

トーエイ物流

【谷本博】トーエイ物流(遠藤謙吾社長、埼玉県草津市)が県北地区の大利根町に建設を進めていた「大利根倉庫」が完成、十八日から営業を開始した。危険物倉庫四棟の延べ床面積四平方分は、県内では最大規模となるが、既に四棟とも三月末までには満庫となることが決定している。十七日には関係者による竣工披露宴が行われた。



18日から営業を開始した危険物倉庫

加須市に隣接する大利根工業団地の一角で、敷地面積八千平方分、敷地内には事務所と百三十平方分の普通倉庫も併設している。化粧品や化学製品などを中心として、十八日からはA棟とB棟に入庫がスタート、三月二日からC棟とD棟の利用が始まる。

昨年九月から建築に着手、本格的な危険物倉庫として県内の許可を得て、今月十日に引き渡しを受けていた。

披露宴で、遠藤社長は「着工して間もなく、米国の発進とする世界経済の危機に突入した。建築費も高い見積りそのまま工事が行われた格好となつたが、幸いにして四棟すべてが完成を前に埋まることになって安堵(あんど)したところ。今回の

倉庫を契機として、危険物が地域社会に果たす役割クローズの施設。危険物保管倉庫の特徴を生かし、は大きく、当町にとって管については、コ他社との差別化につなげたい」とあいさつ。

地元大利根町の柿沼ト三子町長が「トーエイ物流は四十五年の歴史を持つ県内有数の企業。企業協会のメンバーの中でもトップたいとエールを送った。

埼玉県倉庫協会の鈴木俊一会長は「これほどの規模の危険物倉庫は、当性は改めて敬意を表す。確保の面からも、安全・安心が求められる。トーエイ物流の先見性には改めて敬意を表す。確保の面からも、安全・安心が求められる。トーエイ物流の先見性には改めて敬意を表す。